

7-3

本人の意思と家族の希望に基いた看取りへの取組み

本人の不安と家族の揺れ動く心のサポートの中でのCWの心の変化

ターミナルケア

ユニットケアにおける取組み

社会福祉法人 武尊会 特別養護老人ホーム 御岳園

| | |
|--------------------|---|
| ケアワーカー 中村充乃 | 生活相談員 田中憲作 |
| 東京都青梅市御岳本町163番地1 | 看護師 渡辺反子 |
| TEL : 0428-79-0802 | E-mail : m-soudan@busonkai.com |
| FAX : 0428-79-0803 | URL : http://www.busonkai.com/mitakeen/ |

| | |
|----------------------------|--|
| 今回の発表の施設 またはサービスの 概要 | 東京の奥座敷・御岳渓谷を眼下に、四季折々の花々や新緑・紅葉を眺めることができる自然の中に、特別養護老人ホーム御岳園があります。入所定員は60名、全室13.22㎡(約8畳)の個室で、8ユニットに分かれています。1ユニット7名から8名の構成となっています。 |
|----------------------------|--|

〈取り組んだ課題〉

1. ユニット型特別養護老人ホーム御岳園は開設4年目を迎え、オープン当時からターミナルケアを実施してきている。今回、リウマチによる多臓器不全症という難病の方で、何度か入他院を繰り返したが、慣れ親しんだ御岳園で「最後を迎えたい」と本人とご家族の強い希望により終末ケア依頼を受理した。

〈具体的な取組み〉

- ① 本人の精神的苦痛と肉体的苦痛を軽減する為の家族とCWとNSが支援する。
- ② 面会時家族が安心して帰宅できるようにCWとNSが支援する。
- ③ 一進一退を繰り返す、身体状況の変化の把握をナースとケアワーカーとが情報の共有をする。
- ④ ターミナルケアによりCWの葛藤や心の変化などを通じ、仕事のやりがいとケアのレベルアップを図る。

〈活動の成果と評価〉

1. 看取りを数年実施してきたケアワーカーとナースの経験を活かし、難病にもかかわらず苦痛症状なく終末を迎えられた。

- ① 個室対応というゆったりとした流れの中で好きな絵、家具、ぬいぐるみ、自分で作った手芸品などに囲まれて、点滴やO₂をやりながら毎日家族の面会により、眠るような形での終末となった。
- ② ケアワーカーとナースによる合同記録のターミナルモニタリング表を開示した。家族が状態の変化を知ることができ、安心して帰宅できた。
- ③ 医師より、ターミナル体制の診断が下された時点で、生活モニタリング表から、ターミナルモニタリング表に変えることにより、一刻一刻と変化する状態把握でき、苦痛の除去のケアが早めに行えた。最期までシャワー浴ができ、褥瘡もなく経過した。
- ④ ケアワーカーのアンケートの結果、本音の部分を聞くことができ、共通の悩みを理解でき、レベルアップに繋がった。

〈今後の課題〉

約8割の入所者が施設内ターミナルケアを望んでいる。希望に応じられるようケアワーカーとナースの連携を強化する為には同一視点を持つことが次の課題だと考えている。同一視点を持つことで、共通の思いでケアを実践し、さらなるレベルアップを目指していく。

【メモ欄】